

# 図書館PCで学ぼう

今年度より、宮城野校舎・多賀城校舎図書館に学習用PCが導入されました。  
 図書館の本とインターネットを活用し、充実した情報収集ができるようになりました。  
 お昼休みと放課後にPCを利用し、自主学习や調べ学習をすることができます。  
 まだ利用したことのない人も、図書館へ足を運んでみてください。



↑多賀城校舎図書館は、ライオンズホール2Fに引っ越しました。どちらの図書館でも、本とPCの両方をどんどん活用してくださいね。



宮城野校舎図書館の机に1台ずつPCが設置されており、学習目的で使うことができます。

PC利用に関するきまり  
 OPCを利用する時は、「PC利用簿」に必要事項を記入してください。  
 OPCは学習目的・進路調査等の目的でのみ利用できます。  
 OUSBメモリ・CD-ROMなどの外部メディアは利用できません。  
 データの保存にはクラウドシステムを利用してください。  
 Oトラブル等が発生した場合は、図書館職員へ報告してください。

《先生方へ：授業等での利用について》  
 図書館へ連絡をしていただき、PCの利用を含めた図書館利用予約をすることができます。  
 各教科での学習や、総合的な学習の時間に、ぜひ図書館PCをご利用ください。  
 学習テーマに関する図書の検索・収集も承ります。

## 情報収集サポート本の紹介

### ◇問題を「考える力」を育てる



「天才児のための論理思考入門」  
 (三浦俊彦,2015,河出書房新社)【宮】  
 ◇子どもからの質問を題材に、文理系・社会規範など様々な観点から1つの問題を追究する力を育てる1冊。

【宮】… 宮城野校舎にあります  
 【多】… 多賀城校舎にあります

【他にもこんな本】  
 「学び続ける力」(池上彰,2013,講談社)【宮】  
 「10歳から身につく問い、考え、表現する力」  
 (斉藤淳,2014年,NHK出版)【多】

### ◇情報を「集める手がかり」



「総合百科事典ポプラディア新訂版1あ・い」  
 (2011,ポプラ社)【宮】  
 ◇知りたいことがあつたらまずこの1冊。「関連項目」が青字で書かれているため、その事柄のキーワードをすぐ見つけることもできる。

【他にもこんな本】  
 現代用語の基礎知識 (自由国民社)【宮・多】  
 日本国勢図会/世界国勢図絵  
 (矢野恒太記念会)【宮・多】

### ◇情報を「整理する力」を育てる

「世界を信じるためのメソッド  
 ぼくらの時代のメディア・リテラシー」  
 (森達也,2006,イースト・プレス)【宮】  
 ◇現代社会において大量に提供される「情報」の中で、本当に必要なものを手に入れるための力を知る1冊。



【他にもこんな本】  
 思考の整理学  
 (外山滋比古,1986,筑摩書房)【宮・多】  
 佐藤可士和の超整理術  
 (佐藤可士和,2011,日本経済新聞出版社)【宮】

### ◇考えを「伝える力」を育てる

「コンテンツの秘密  
 ぼくがジブリで考えたこと」  
 (川上量生,2015,NHK出版)【宮・多】  
 ◇情報の分かりやすさ、「ノイズ」の挿入など、自分のイメージを人に伝えるための技や課題をスタジオジブリのクリエイターを通して知る1冊。



【他にもこんな本】  
 アイデアを形にして伝える技術  
 (原尻淳一,2011,講談社)【宮】  
 日本語の<書き>方  
 (森山卓郎,2013,岩波書店)【多】

# 図書館だより

## 想像力の源



雲一つない秋  
 空と紅葉が鮮やかな  
 泉ヶ岳を眺めながら、稲刈りの  
 終わった田んぼの畦道を歩いて  
 いると、聞き覚えのある  
 鳴き声が空から聞こえて  
 きました。それは仙台平野  
 に戻って来たことを告げる  
 六羽の白鳥のご挨拶のよう  
 でした。北国からの長い旅  
 を無事終えて、安堵感と疲労感が入り混じ  
 った白鳥の野太い声に心が奪  
 われたとき、グリム童話に  
 ある「六羽の白鳥」をふと  
 思い出しました。

この話は、継母であるお妃が七人の継子を嫌って、魔法の肌着を使い、六人の兄たちを次々と白鳥に変えるのですが、難を逃れた末娘がさまざま苦難を乗り越えながら成長し、兄たちを人間に戻すサクセスストーリーです。

仙台育英学園高等学校  
 秀光中等教育学校  
 校長 加藤 雄彦

グリム兄弟が聞き集めたドイツの昔話の本の題は『子どもと家庭のメルヘン集(昔話童話集)グリム兄弟収集』として世界中の人々に親しまれています。このメルヘンという言葉は空想的な物語を指すものとして使われていますが、グリム兄弟がメルヘンと言っているのは民間で語り伝えられてきた昔話、民話の類です。

グリム兄弟が古来の法律、文学、言語の研究に夢中になっていた当時のドイツは変動の時代でした。伝統的な神聖ローマ帝国は衰えて、ドイツは多くの国に分かれて非統一状態にありました。同時にフランスからの革命思想の影響とナポレオン軍の侵入・占領を許していたので、グリム兄弟はドイツ人の宝である昔話・民話を守り、後世に伝えたいと考え、一八〇六年から一八五七年までの五十余年の時間をかけて

第43号  
 秀光中等教育学校 仙台育英学園高等学校 図書館 印刷所 本 田 印刷 株式会社

収録した二〇〇話の大作を出版したのです。本日ご紹介する『グリムの昔話一・二・三』(訳者大塚勇三、画家フェリクス・ホフマン、福音館書店発行二〇〇二年一〇月初版)は、そういうお話のうちからホフマンが一〇一話ほど選び、それに優れた絵をつけたものです。彼はスイスで一九一一年に生まれ、ドイツの美術学校で絵を学び、卒業後、故郷アールウで挿絵の仕事を始めます。版画のほか、ステンドグラスや壁画の制作も行い、一九五七年の絵本『オオカミと七ひきの子ヤギ』でドイツの年間優秀賞に選出されています。彼の作品には華美な装飾はなく、ドイツの日常生活を容易に想像させる説得力があると思います。また、挿絵には、その出来事が現実にあつたと思わせるリアリティがあり、幼い子供たちが作り話のなかの様子を容易に理解できる表現力があります。現代社会はインターネットが有力な情報交換ツールとなつていますが、私は、幼いころから自分のペースで本を読み、その中に表現されている情報から情景をじっくりと想像する習慣を身に付けてきました。一方、さまざまな情報がスピーディーに画像と言語に変換して現れる現在は、理解したよ

うな錯覚に陥ります。何かをそこから想像できていればマシでしょうが、その瞬間の感覚だけを拾っているように思えてならないのです。これは多分代々の問題かと悲観したこともありましたが、それは勘違いだつたと思う場面がありました。私がある大学の学生たちへお話をする機会があつたとき、「画像がないのか」と尋ねられ、「話題から想像することができないので次回からは用意して欲しい」と言われた時のことです。そのときの話題は皆さんもご存知のはずの『竹取物語』を題材にしてみました。幼いころ大人から絵本で読んでもらい、絵本の挿絵を見ながら場面を想像する体験をしていることを前提に話したのですが、仮にそのような体験が不足しているとするれば、常に挿絵と同じ画像データを見てもらわれないと理解が進まないのかと少し残念な気持ちになりました。日本人の心のなかにある伝統的な昔話・民話を大人が大切に扱う習慣こそが子供の健全な成長を保障するのだと思います。皆さんもいざれば家庭を持ち、大切なものを次世代に伝えていく大切な使命があるはずですよ。しかしながら想像力の源となる本との出会いを疎かにすると、画像がないと理解できない、味気ない時間を過ごすことにならぬのではないのでしょうか。この心配が、杞憂に終わるよう祈ります。

## 編集後記

アメリカのミュージシャン、ポップ・アイコンが昨年ノーベル文学賞に選ばれました。歌詞が人々に歌い継がれる時音楽も文学となり得るのでしょうか。古代ギリシャの詩や神話、日本の「平家物語」、各国に伝わる民話など、口伝えによって受け継がれてきた物語はたくさんあります。それらは聞き手の想像力によって壮大な世界観を創り出し受け継がれるべき文学となつたのだと思います。世に溢れる情報を素早く選択する能力も必要ですが、校長先生のお言葉にある「想像力の源」は様々な物語や芸術の中にあります。美しいものをじっくりと楽しむ時間を大切にしていきたいものです。(浅川)



